

6月 月例会報告

2025年6月28日（土曜日）中央区・佃区民館

会場参加 15名 リモート参加 9名

第一部（研究発表と懇談会）

【研究発表】 「語部と歩く東日流」の研修旅行の報告 安彦 克己氏

（1）発表内容：

予定されていた発表が延期され、急遽、会長が代役となって表題に絡めた発表をされた。

- ①最初に、沖ノ島で発見された金象嵌付き矛に触れながら「沖ノ島」を古田先生と訪れた時の様子。
- ②引き続いて、表題旅行地等について旅程に沿って説明された。

詳細は、[<こちらをクリック>](#) してご覧ください。

（2）質疑：

- ①沖ノ島関連で「女人禁制」絡みの裏話が披露されました。
- ②旅行報告に関しては、参加者らから補足的な解説（難読の善知鳥（うとう）神社が他の地域にも存在、東北地方の鉄は北方からもたらされた、等）。質疑に伴い様々な意見や感想が飛び交って大変面白く伺いました。（発表80・質疑10分）

【懇談会】

安彦会長の発表に関連して、①沖ノ島、②石塔山等が話題になりました。（15分）

【休憩】

第二部（勉強会と読書会）

司会と説明は新保幹事

【勉強会】「古田武彦『盗まれた神話』その七」

（1）対象：①第十章〔神武東征ははたして架空か〕と②第十一章〔侵略の大義名分〕でした。

（2）要点：

- ①第十章に関しては次のようでした。
本章は8節から構成され、古田先生は、通説論者が盛んに喧伝する「神武東征架空説」を、多角的な観点から批判されています。
- ②第十一章に関しては次のようでした。
本章は5節から構成される。古田先生は、神武天皇は近畿天皇家の初代天皇という位置づけではなく、奈良にあった前王朝を武力で倒した革命者とする『日本書紀』編者の認識を導き出され、戦後史学の『日本書紀』に対する理解に鋭い批判の目を向けておられます。

（3）質疑：

- ①第十章に関しては次のような質疑がありました。
 - ①当時のヤマトは、国造や県主（「あがた」とは我地のこと）達が支配する小国の連合体。その侵略への侵略戦争だった。
 - ②九州勢によるヤマトへの「東征はあったが、『記紀』の詳細な記事は九州王朝の遠賀川流域侵略譚からの流用かも。
- ②第十一章に関しては次のような質疑がありました。
 - ①最終節〔「免責」の思想〕について、意味が取りづらい等に関連する質疑がありました。
 - ②「神武東征」は唐対策として『書紀』の編者が東征説話を作ったとの意見も。（発表・質疑40分）

【読書会】 「岩波文庫『日本書紀』持統紀その七」

（1）対象：持統七年（693）条で、トピックとして、「大赦」と「筑紫太宰」を取り上げました。

（2）要点：

- ①常態化した吉野宮行幸と広瀬・竜田二神祭祀
- ②壬申年の功臣も高齢化して次々に死没、
- ③藤原宮の整地が進み、軍事力強化の詔により軍事教練を実施した、事などです。

（3）質疑：

- ①80歳以上の人たちへの物品賜与に関して、当時の健康な人の寿命は現在の我々との同じだったかどうかで、様々な意見がありました。
- ②秋九月条の「清御原天皇」という表記は、『古事記』序文とほぼ同じですが、『日本書紀』の他の天皇紀では「浄御原天皇」になっていて、持統紀の依拠資料は他と違っていているようです。（解説・質疑35分）
勉強会・読書会の詳しい資料は [<こちらをクリック>](#) してお読みください